

令和6年度 第1回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和6年7月26日（金） 午後2時から午後3時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 神保 富美子 委員長
- ② 山中 冴子 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 浅野 永子 委員
- ⑤ 井上 直也 委員
- ⑥ 加藤 恒 委員
- ⑦ 桑原 静 委員
- ⑧ 関根 公一 委員
- ⑨ 関根 広美 委員
- ⑩ 羽諸 英臣 委員
- ⑪ 平田 利雄 委員

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 岸 聖一
- ② 参事兼副館長 井出 浩史
- ③ 主幹兼事業・企画係長 山田 浩行
- ④ 事業・企画係主査 蜂谷 香織
- ⑤ 事業・企画係主査 曾根 啓佑
- ⑥ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑦ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑧ 社会教育指導員 永井 紀美子

4 欠席者名

〈委員：1名〉

- ① 中川 敬三 委員

5 報告事項

- (1) 令和5年度さいたま市民大学実施結果について
- (2) 令和6年度さいたま市民大学実施状況について

6 協議事項

- (1) 令和7年度さいたま市民大学各コース（案）について

7 その他

- (1) 運営委員会等のスケジュールについて（予定）

8 公開・非公開の別
公開

9 傍聴者の数
0名

10 報告内容

- (1) 令和5年度さいたま市民大学実施結果について、事務局から資料1を基に説明。

以下、質疑等の内容

関根公一委員	目標として39歳以下の受講者を増やす、というものがあるが、実情は高齢者と小学生が多く、いわゆる現役世代の参加はファイナンシャルコースを除いて少なく感じる。 ファイナンシャル入門編は金曜の夜にオンラインで実施するという工夫があってこうした世代の参加が多くなっていると思うので、今後、39歳以下の受講者を増やすには、さらに工夫が必要になる。
神保委員長	39歳以下の受講者数と学びや気づきが得られた方の割合、いずれの目標も達成しているのはよかったが、この目標は毎年立てているものか。
事務局	令和2年度に5年分（令和7年度まで）の目標を立てており、毎年立てるものではない。

- (2) 令和6年度さいたま市民大学実施状況について、事務局から資料2を基に画像を用いて説明。

以下、質疑等の内容

加藤委員	市民企画について、団体はプレゼンテーション時に、グループワークを重視した講座内容を提案していたと思うが、それが上手く学びや気づきには結びつかず、一部の受講者からはグループワークについて疑義があったのは残念に思う。 団体側は振り返りで、今後に生かしていくようなアクションはあったのか。
------	--

	また市民大学へのフィードバックはあったのか。
事務局	現在、とりまとめたアンケートを団体と共有し、報告書等のやり取りを行っている最中である。今後、委員の皆様にもフィードバックしていきたい。 団体と話す中では、受講者レベルが想定より高く、入門編として講師が設定した内容では満足されなかったのではないかと、といった話があった。 講座の内容に応じてターゲットを厳密に分けないと満足度は上がらないかもしれない。
山中副委員長	講座を受ければ基本的には何か学びや気づきが得られるはずだ。アンケートでは「学びや気づきはありましたか」と同じ聞き方をしているが、いろいろな内容のコースがある中で、その特性が反映された質問の仕方を検討する余地があるのではないかと。 講座ごとに講師と受講者の思いのギャップはありうることで、質問の仕方によって学びや気づきの回答、パーセンテージが変わってくると思う。
神保委員長	令和5年度のファイナンシャルコースでも、ターゲットと実際の受講者とのギャップはあった。高度で専門的というさいたま市民大学の趣旨と初心者向け講座というターゲティングについては引き続き注意する必要がある。
井上委員	今年度の文学コースは、内容が面白そうなのに人が集まっていないのがもったいないと感じた。人を集めるためには、曜日と場所が重要だと思う。 土日の開催やアクセスしやすい会場設定を検討していく必要がある。

1 1 協議内容

(1) 令和7年度さいたま市民大学各コース（案）について協議。

以下、質疑等の内容

神保委員長	令和6年度と比べて、令和7年度は講座数が増えているのか、減っているのか。
事務局	文学コースと美術コースがそれぞれ1講座になっているため、コース数は同じだが講座数は減っている。
神保委員長	今回の会議ではブレスト的にいろいろ案を出していく形でよいのか。 曜日、時間、場所も考慮しつつ、教養Ⅰ・Ⅱと未定1・2・3について意見を出していくということでのよいのか。
事務局	委員の皆様以案や意見を出していただき、事務局で集約して次回会議までに案をまとめた。
桑原委員	講座案として、「認知症」と「生成AI」を提案したい。 認知症については、サポーター制度などいろいろあるがまだまだ知られていない。これまでも認知症を予防する講座は多かったが、いざ身近な人が認知症になった時に、家族など受け入れる側はどうしたらよいのか、新しい情報を学べるとよい。 生成AIについて、企業でも活用が進む中、使える人と使えない人の格差なども生じており、その解消には意義があると思う。これからのAI社会と向

	き合い、それを乗り越えるコツなどを学べたらよいと思う。
平田委員	前年度、今年度で、教養ⅠとⅡのどちらかが見込みと違う人数になっている。7年度については、ⅠとⅡで差がないようにしたい。ただ、人数が見込めなくても取り組まなければならないテーマもあるので、集まらなかったから駄目ということではなく、分析をすればよい。
青木委員	39歳以下の受講者を増やすという観点について、教養コースでも積極的にそうしたコースを設けたほうがよいのか、個別のコースで検討すればよいのか。
事務局	39歳以下の受講者数は、市民大学全体としての目標であるので、教養コース・未定コースの枠を問わず、若年層も受講しやすい日時やオンラインも視野に入れて幅広く検討していただきたい。
青木委員	若い方でも参加できる環境づくりは重要で、曜日や時間帯は十分配慮する必要がある。また、今は高齢の方でも仕事をされている方がどんどん増えているので、平日の昼間開催という講座設定では、高齢の方すら参加が見込めなくなってくるのではないかと。講座の曜日や時間帯の検討は確実に必要であり、また、年代に関係なく自分ごととしてとらえられるテーマ設定も重要だと思う。
関根広美委員	認知症をテーマにするなら、「ケアラー」という言葉を入れてみてはどうか。また、市民大学の受講者について、桜区と岩槻区の人が少ないので、地域差なく学んでもらえるように何か方法を考えてはどうか。
加藤委員	ファイナンシャルの講座について、50代までの方と60歳以上の方ではニーズが明らかに異なる。金融関係で言えば、若い世代は資産形成、高齢者は老後の資金といったように求める講座内容が全く変わってくる。ターゲットを絞った講座内容にして、そのターゲット層に合った時間と場所の設定を考えてはどうか。
山中副委員長	ケアラーについても認知症についても、さいたま市としての方針や施策があるので、講座の中で市の施策とつなげていけると、視野が広がり生活の中でも役に立ってよいと思う。 また、講座の実施形式について、高齢者も仕事をしていたり、猛暑で会場まで出てくるのが厳しかったりという状況があると思うので、対面だけでなくハイブリットでの開催なども選べるよう検討するとよい。
浅野委員	大きな災害後の今、特に防災についての講座があるといい。地域としても家庭としても関心があり、様々な方向からのアプローチができるテーマだと思う。 また、世代間ギャップのコミュニケーションというテーマも面白いと思う。話す時はもちろん、連絡する時は電話なのかLINEなのか等、どのコミュニケーションツールを使うのかといった話題を盛り込むのもよいと思う。
山中副委員長	そらエココースについて、「そら」と「エコ」という2つのテーマを混ぜることで、内容の軸が定まらず、今年度の教養Ⅰコースのように満足度に影響が出るのではないかと。両方の内容が受講生にとって満足いくものとなるのか。

神保委員長	「そらエコ」については自分も気になっている。どのような組み合わせをする予定なのか。
事務局	過去に企画の相談をしたことがある航空会社との連携を考えている。当該企業には座学講座と工場見学のプランがあり、実績もあることから、実施内容等詳細はお任せする形になる。
青木委員	各講座の開催方法について、コミュニティーセンターなどを利用したサテライト開催を検討してみてはどうか。先ほど受講者が少ない地域があるという意見があったが、アクセスしにくい地域だけでも試験的にサテライト開催をしてみることで、近ければ行くのかという点の今後の検証にもなると思う。講座には、同じことに興味を持った人がリアルに集まることで得られる満足感があると思うので、全ての人が自宅等からのオンラインではなく、サテライト開催の選択肢もあるとよいと思う。
加藤委員	講座全般に関して、若年層が参加しやすくするためには託児の選択肢が必要だと思う。民間の託児業者と提携し、費用は受講者負担ということでもよいと思う。
浅野委員	地域ボランティア養成コースに関して、社会福祉協議会との連携も考えられる。ただ、社会福祉協議会が市内各団体と協力して募集している「夏のボランティア体験」は6月から申し込みが始まっていて、人気のものはすぐに定員に達してしまうので、そうした事業面でもインセンティブが得られるような連携ができるとよいと思う。 また、チャレンジスクールのボランティアについても、説明会が各地区で違うので、タイミングを逃すと参加が難しくなる。そういった方々のためにさいたま市民大学が受け皿となり、活動につなぐことができると効果的だと思う。
羽諸委員	さいたまの魅力コースについて、さいたま市には鉄道だけでなく盆栽や漫画、人形もある。そうした内容を盛り込んだ講座を通じてさいたまの魅力を発信していけるとよい。 また、文学コースについて、交通アクセスの問題から、開催場所を図書館に限らず生涯学習総合センターで行うことも有効だと思う。

1 2 その他

令和7年度運営委員会等のスケジュールについて、事務局から資料4を基に説明。

1 3 閉会